

～麻しん・風しんにかからないための唯一の方法は予防接種です～



麻しん・風しん混合(MR)ワクチンの 予防接種をうけましょう!

麻しん（はしか）と風しん（三日ばしか）は、近年、大都市圏を中心に多くの患者が発生しています。麻しんは、感染力が極めて強く、アジア、ヨーロッパ等の海外流行国からの訪問者や海外渡航者がウイルスを国内に持ち込み、多くの人と接触する場所での集団感染事例等も報告されています。

風しんは、平成24～25年にかけて大流行しましたが、平成30年以降にも多数の患者が発生しており、十分な注意が必要です。また、その患者の予防接種歴をみると、ワクチンを2回接種できていない方（接種歴が不明の方を含む）が、多いことが分かっています。

麻しんと風しんは、特別な治療法がなく予防接種の効果が高い病気です。免疫を持たない人が患者と接触すると、ほとんどの人が発症すると言われ、確実に予防するためには2回の予防接種が必要です。

定期接種対象者（無料で接種できる年齢）

[1期] 生後12～24か月に至るまで（2歳の誕生日前日まで）



1歳になったら、誕生日プレゼントにワクチン接種を!

お母さんからの免疫がなくなる1歳を過ぎたら、なるべく早い時期に予防接種を受けることをおすすめします。



[2期] 小学校就学前1年間（年長児：4/1～翌年3/31迄）

できるだけ早く接種してね。委託医療機関はこちら。



小学校入学準備に2回目のワクチン接種を!

～ 2回の接種が必要な理由 ～

- ① 1回接種のみでは免疫がつかなくなったり、免疫が持続せずに麻しんにかかってしまうことがあります。
- ② 2回の接種で98～99%の子どもに、麻しんと風しん両方の免疫が付きまます。
- ③ 麻しんにかかると合併症を伴って重症化することがあります。
- ④ 風しんは妊娠中にかかると出生児に先天性風しん症候群を引き起こすことがあります。
- ⑤ 将来の進学や就職時に、麻しんワクチンの接種の有無が問われることがあります。



1期・2期の期間以外は任意接種となり**1万円程度の自己負担がかかります。**

▲▽▲接種間隔について▲▽▲

注射生ワクチン（BCG・麻しん風しん・水痘など）を接種後に異なる注射生ワクチンを接種する場合は、中27日以上の間隔をあげる必要があります。また、同一種類のワクチンを複数回接種する場合は、それぞれのワクチンに定められた接種間隔を守る必要があります。計画的に接種を受けましょう。

▲▽▲麻しん風しん混合(MR)ワクチンの副反応について▲▽▲

1回目の接種後2週間以内に発熱（13%）や発しん（3%）がみられますが、通常は1から3日で治ります。2回目の接種では、発熱や発しんの頻度は極めて低くなります。まれに脳炎や脳症（100万から150万人に1人以下）がおこることがあります。

麻しんはどんな病気ですか？

昔は「命定め（麻しんにかかったら生きるか死ぬかわからないこと）

の病気」と言われていました。感染力がきわめて高く、予防接種をしないと

ほとんどの人がかかる病気です。感染して回復するまで約7～10日間と長いので、身体への負担が強く、合併症によって10人に1人は入院することがあるため、世界レベルでの排除が目標になっています。



◆ 感染経路と潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる麻しんウイルスにより空気感染、飛沫感染、接触感染します。潜伏期間は約10～12日です。

◆ 症状

主な症状は発熱、せき、鼻水、目の充血、発しんです。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたあと、再び高熱と発しんが出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失します。

◆ 合併症

気管支炎、中耳炎、肺炎、脳炎があり、患者100人中、中耳炎は5～15人、脳炎は1,000人に1人の割合で発生がみられます。

また、数年から10数年経過した後に発症する亜急性硬化性全脳炎（SSPE）という慢性に経過する脳炎は、10万人に1人発生します。さらに麻しんにかかった人は1,000人に1人の割合で死亡します。※予防接種を受けると、これらの重い合併症は起こりません。

風しんはどんな病気ですか？

発しんや発熱が3日程度で治ることが多いので「三日ばしか」ともいわれます。

妊婦が妊娠初期に風しんにかかると、先天性風しん症候群（先天性心疾患、白内障、難聴など）の子どもが生まれる可能性が高くなります。妊娠中の女性は、予防接種を受けることができないため、妊娠前に予防接種を受けておくことが大切です。また、男性も風しんにかかって周囲の妊婦に感染させないように予防接種を受けておくことが大切です。



◆ 感染経路と潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる風しんウイルスにより飛沫感染します。潜伏期間は約14～21日です。

◆ 症状

主な症状は麻しんより淡い色の赤い発しん、発熱、首の後ろのリンパ節がはれるなどです。その他に、せき、鼻水、目の充血などの症状がみられることもあります。

◆ 合併症

関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎が報告されています。患者の中で、血小板減少性紫斑病は約3,000人に1人、脳炎は約6,000人に1人ほどの割合で発症します。大人になってからかかると、子どもの時より重症化する傾向がみられます。

【お問い合わせ先】

各区保健福祉センター

大阪市保健所感染症対策課

TEL:06-6647-0813 FAX:06-6647-0803

れいわねんがつさくせい
(令和6年6月作成)